

# 【姫路市立船場小学校】の取組

## 「ICTを活用した新しい時代の学び」に関する研究

### ～Chromebookの日常使いを目指して～

#### 1 主な取組

(1) 授業において、児童の思考を補助するツールとしてJamboard やGoogle スライド を活用する。

##### ① Jamboardの活用

はじめは付箋に自分の意見を書きこみ、貼り付ける指導を行った。慣れてくると児童は似た意見を集めるようになり、授業においても道德の中心発問や国語の初発の感想をまとめる際に活用することができた。大きな利点として児童が自分の意見を持つことができ、発言が不得手な児童にとっては自分の考えを全体に伝える手法の一つとして活用できた。さらにJamboardの背景に道德、国語の本文やチャート図を設定することで、児童の思考の補助を行うことが可能となった。



Jamboard 活用事例

##### ② Google スライドの活用

総合的な学習の時間のまとめを、スライドを用いて行い、自分たちの調べたことを記したスライドをそのまま発表にも活用することができた。また、アニメーションを付けたり、画像を加えたりする等、聞き手への伝わり方を考えることで、相手意識を持った発表を行うことにもつながった。さらに、スピーカーノートを原稿の替わりとして利用することで、話し手側の工夫も成長するきっかけとなった。



Google スライドの活用事例

(2) 日常的な活用を目指して、登校後、休み時間、終わりの会等に、児童がChromebookを気軽に使えるような環境づくりを行う。

##### ① Google Classroomの活用

Chromebookを使う習慣をつけるため、朝の連絡や連絡帳に書くことをGoogle Classroomに載せることで、児童は登校後からすぐにChromebookを扱うことができている。休み時間にはコメント機能を用いて学級活動の計画を立てたり、授業の面白かったことや質問等を共有したりする姿が見られた。また、終わりの会ではコメント機能を用いていいところを見つけを行うことで、短い時間でたくさんの児童の思いを交流することができた。



Google Classroomの活用事例

## ② ドリル学習ソフト、タイピング、スクラッチの活用

児童が自由に Chromebook を使っていい時間（昼休み等）を設定し、児童が使えるサイトを紹介した。ドリル学習ソフトは児童が自分のレベルに合った課題を自分のペースで行うことができ、自動的に採点をするので、教師側の負担軽減にもつながっている。また、タイピングサイトも紹介し、ローマ字入力に慣れさせた。さらに、スクラッチを使ってプログラミング学習の指導を行ったことで、プログラミングを楽しみながら学び、自分が作ったゲームをクラスの友達に紹介する姿も見られた。



ドリル学習ソフト活用の様子

(3) 学校行事や各種アンケート等を Google Meet や Google フォームを使うことで教師の負担軽減を図る。

### ① Google Meet の利用

コロナ禍における全校朝会は密を避ける工夫などが必要である。そこで、Google Meet を活用して全校朝会を実施することとした。これによって三密を避けて実施することができ、児童の移動時間も必要なくなったため、教師にとっても、児童にとっても大きなメリットが生まれた。また、特別活動においても Google Meet の活用は大きな力となった。Google Meet を活用して各委員会が撮った動画を配信することができるので、特別活動における活動の幅が広がったのだ。動画配信については、参観日やオープンスクールでも行った。コロナ禍において家庭とのつながりをつくるのが難しい状況であったが、動画配信によってそれが可能になった。



Google Meet 活用の様子

### ② Google フォームの利用

長期休暇中の健康観察や通信環境の確認を Google フォームを用いることで、一度に結果を集約し教職員で共有することができ、事務作業の負担軽減につながった。また、これまで紙でやりとりをしていたいじめ実態調査も Google フォームを活用し、担任や担当の負担を大きく減らすことができた。



Google フォーム活用の様子

## 2 取組の背景

令和2年2月、GIGA スクール構想が本格的に動き始める前の時点で研究協力校に応募した。今後の学校教育の在り方を考えると、教育の情報化は避けては通れない必須の課題であると考えたからである。そこで具体的な取組として、教師と児童と一緒に活用ルールを模索しながら「端末の日常使い」を目指していくこととなった。

### 3 取組の経緯

市内はもとより全国をみても1人1台端末環境で先行実践している学校が少ない中だったので、職員の誰もが手探りからだったが、研究員を委嘱された3人の教員が中心になり、高学年（6、5、4年生）の活用から研究を始めた。

研究1年目は、朝の会や休み時間など、教師が見ていない場面でもChromebookを自由に使えるようにすることから取り組んだ。Chromebookは市教委が管理しているとはいえ、子供たちは自由にインターネット検索ができる。また、堅牢とはいえ従来の学習用具より高額で精密機器である。そんなChromebookを子供たちに自由に使うことに対し、生徒指導上の大きな不安があった。しかし、これが目指す姿なのだと教職員で確認し合い、勇気をもって子供たちの様子を見守った。取組を始めてしばらくすると子供たちはすぐにChromebookに夢中になった。新たに健康面の心配や利用のメリハリなど規律上の心配が加わったが、そんな折、子供たち自身からChromebookを使うルールが必要なのではないかと声が上がった。これを好機と捉え、子供たちと学級のルールについて話し合う場を設けた。このルールは子供たちから自発的に生まれたもので、まさにGIGAスクール構想における、子供たちの主体的な活用の姿であると考えている。

研究2年目は、授業での活用を主な課題にした。子供たちの端末活用スキルは日常使用の中で向上したが、授業での活用となると教師の効果的な授業設計が必要になる。授業中での活用は今も研究中だが、ICTを使うかどうかに関わらず授業そのものを見直す機会となっている。また、職員配置が変更した中でも、教員同士の活用スキルや活用アイデア、活用意識などの共有が自然と広まった。教員の変化は、コロナ禍における学習者用端末を活用した支援への円滑な対応につながった。

### 4 変容

#### (1) 子供たちの変容

学習面においては、授業中に自分の知らない単語が出てきた場合にすぐに検索をかけたり、友達が書いた文章を読み、感想をコメント機能を使って伝えたりと積極的に学習に取り組む姿勢が明らかに増えてきた。

生活面においては、Chromebookをコミュニケーションツールとしてとらえ、休んでいる児童に対して板書やノートを写真に撮ってGoogle Classroomに載せて紹介する等、Chromebookを活用するほどに児童同士のつながりがより強くなっている。



様々な場面でChromebookを活用している

#### (2) 教職員の変容

Chromebookが導入され、研究1年目の当初はそれぞれの教職員によって活用の幅に差ができていた。そこで、全体で足並みをそろえることができるよう、クラスルームの使い方やドライブの活用等のGoogle Workspace研修を行った。これらの研修を通して、職員が互いに何でも質問できる環境が醸成され、それぞれの教職員の活用意欲が高まっていった。研究2年目になると学年の配置換えがあり、全ての学年に活用できる教師が配属されたことで、さらにChromebookの活用・研修を進めることができた。

### (3) 学校の変容

これまで紙をベースにしていたことを電子化に置き換えようとする意識が学校に根付いてきた。その結果配られるプリント類が減ったり、机上が整理されたりと業務改善にもつながってきている。また、緊急事態宣言下では職員会議を Google Meet で行う等の柔軟な対応もできた。

## 5 見えてきた課題

児童が扱う Chromebook を四六時中監視することができないため、児童が新しい機能を見つけて問題になることがある。チャット機能（今は削除されている）を児童が見つけて広めたことで、トラブルの原因となったり、スクラッチのプログラミング学習をせずに投稿作品のみを楽しんでいたりと、まだまだ課題が多い。教師が児童に対して「できることと、していいことは違う」とはっきりと指導し、児童と一緒に考えるルールづくりが必要となってくる。

## 6 船場小学校が目指す「ICTを活用した新しい時代の学び」

児童が Society 5.0 の時代を生きていくためには、安心して ICT を活用した学びができる指導をみんなで心がけていかななくてはならない。教師や児童の負担を増やすのではなく、今の学習、生活が豊かになるための道具として Chromebook を持たせたいと考える。児童が自分の意見を伝える思考ツールとして、お互いの絆を深めるコミュニケーションツールの一つとして、日常に溶け込んだ活用ができるように指導していきたい。これからも児童が文房具と同じように Chromebook を安心して使えるような学びを研究していく。

